

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

# ハロー フレンズ

ファイセック

# FICEC

発行

ふじみの国際交流センター

Fujimino International Cultural Exchange Center

2011年 2月号 (隔月刊) 第113号

## ふじみの国際交流センター 「ボランティアの集い」開催

2011年1月15日、埼玉県ふじみ野市の「うれし野まちづくり会館」で、ふじみの国際交流センター主催の「ボランティアの集い」が開催された。

ふじみの国際交流センターには、ホームページなどを通じて「ボランティア活動に加わりたい」という申し出が日常的に寄せられているが、スタッフ全員が非常勤のため、こうした申し出に対して十分に応

えることができないでいた。そこで、今回の催しは、そうしたボランティア希望の方々に、センターの活動内容を説明して、どんな活動に加わっていただけるか、ともに考えようと開催したものだ。

当日は、最初にセンターの活動全体を説明し、その後、各活動のコーナーに分かれて、スタッフや外国籍の人たちとの話し合いが行われた。

### ボランティア希望者にセンターの活動を紹介



# 「DV 被害者支援ボランティア育成講座」

センタースタッフや行政職員などが受講

DV 被害を受けた人たちにどう対応すればよいのか

ふじみの国際交流センターに寄せられる外国人からの相談の中でも深刻なのがDV(家庭内暴力)に関する相談。センターでは定期的に外部から講師を招いて、DV被害者の相談に対してどのように臨んだらよいのかなどについて研修会を実施している。

そうした研修会の一つとして昨年12月11日に行われたのが「DV被害者支援ボランティア

育成講座」。当日は、さいたま市でDV被害者のためのシェルターを運営している民間団体のカウンセラー・遠山恭子さんを招き、センタースタッフや行政職員などが参加して研修を受講した。

そこで、現在、インターンシップとしてセンターの活動に参加している大学生の岸上友香さんに、当日のレポートをしてもらった。

## 人と向き合い、自分の心とも向き合う

岸上友香

「カウンセリングとは自分と向き合うこと」講師の遠山先生がおっしゃっていたこの言葉が強く印象に残っています。カウンセリングとは、人の心と向き合うと同時に、自分の心と向き合うことなのだというのを、実践を通して学ぶことができました。

今回の講座は初級カウンセリング講座ということで、カウンセリングにあたり大事な心構えや「人の話を聴く」姿勢を実戦形式で体得するというものでした。受講者の方のほとんどが、日ごろから実際にDV支援や、外国人の生活相談に携わる方々です。

講師の方の今までの体験を聞いた後に、「傾聴」の役割演習を実際に行いました。話し手と聴き手、そして話し手と聴き手をそれぞれ観察するチェックマンが2名の合計4名を1グループとし、各役割をローテーションで行っていく、というものです。話し手は3分程度自由なテーマで話をし、聴き手がそれを聴きます。チェックマンは話し手・聴き手それぞれの言動や姿勢を観察して、そこで感じたことを記録します。このチェックマンの役割をすること、相手の話や傾聴の様子を聴いて感じ

たことを整理できるのですが、その場合、話し手や聴き手の言動や所作に注目することで自分の行いを振り返ることもできました。

全体を通して、自分が話し手・聴き手になった場合の反省や人の話をきちんと聴く・耳を傾けるということの奥深さ・難しさを突きつけられた気がします。相手の話を聴き、そして受け容れるこだけの器量と、信頼してもらうこと、相手に心地よく話してもらうことができるだけの人としての豊かさというものが大事なのだと、先生や受講した皆さんの人柄の素晴らしさを垣間見て感じました。カウンセリングだけではなく、普段の生活をも見つめなおす機会をいただいたように思います。

私自身はふじみの国際交流センターでインターンをさせていただいており、直接生活相談を受けた経験はまだありません。まだ、カウンセリングや相談を行う段階には及びませんが、今回の講座では、生活相談やカウンセリングにかかわる上での覚悟・心構えを少しばかり身につけることができたと思います。今後の活動に活かしていきたいと思っています。

## 日本語教室で年末恒例の「蕎麦打ち」 日本語を学ぶ外国籍の人たちが 「太くて長く生きられるように」願いを込めて

「皆さんのお国ではお蕎麦をあるいはそれに近い食べ物を作る習慣がありますか」

6人の日本語受講生への質問に、万来の答えを期待していたが、空疎な空気がそうと流れる中、蕎麦打ち体験講座は始まった。

年末恒例、人気の蕎麦打ちは12月16日、日本語教室を中断しての11時スタートだ。十割蕎麦ならぬ五割蕎麦の完成を目指し力が入る参加者。講師は昨年続く日本語ボランティアの蕎麦打ち名人戸塚泰男先生である。

「外国の方は知らないようですが、蕎麦って日本だけの食べ物なのかしら。麺って、世界の食べ物だと思っていましたけれど」と日本人の声。確かに中国の麺にイタリアのパスタ、アジアのビーフンと麺的なものはあるが蕎麦の実を加工した細長い料理法はないのだろうか。蕎麦という植物は日本の在来種かと言えばそうでもなさそうだ。野生の蕎麦はアフリカからアジアに至るまで散在するという。食用にもされてもいた。ではなぜ蕎麦という細長い形ができてこなかったのか。「続日本記」に蕎麦の記述があるという。だが、今の細長い形になったのはどうも江戸時代らしい。蕎麦は純血種の料理法なのか。

「なぜ日本は蕎麦を年末に食べるんですか」

「一年を無事に過ごせた。来年も細くても長く無事に生きられるようという願いを蕎麦の形に移して食べるようになりました」

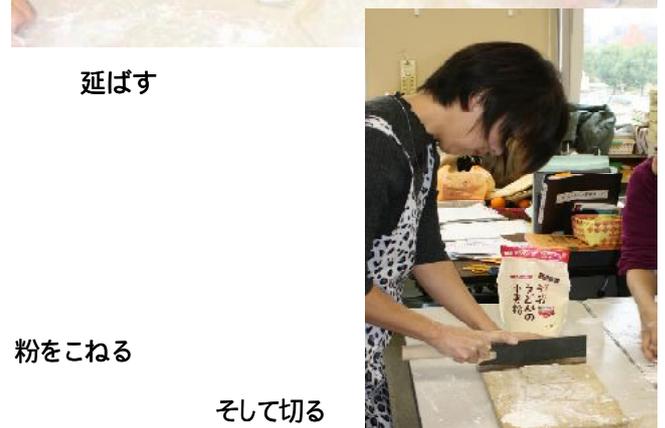
「でも先生“太くて長く生きられるように”と四国地方などで蕎麦ではなくうどんを食べると言います。どっちが正しいんですか。僕なら太くて長いのがいいなあ」(参った)

会話が弾む中、水回し、こね、延ばし、切り、茹でと戸塚名人の指導のもとで無事蕎麦粉は美味な昼食となり参加者の胃の中へ。

外国籍市民に日本の風習を理解してもらおうと紹介してきた日本語教室の伝統行事の年末イベントも蕎麦打ちで終了。スタッフの皆様一年間のご協力ありがとうございました。



延ばす



粉をこねる

そして切る



蕎麦打ちなどを行っています。

学習者は、中国、フィリピン、韓国、タイ、ロシアなどで、指導者は、日本語指導のレッスンを受けたひとや主婦といろいろです。お子様連れの場合は、赤ちゃんは抱っこしたり、一人で遊べる子はおもちゃがあります。ボランティアがあいている時はお相手します。

#### 弁天の森日本語サロン

開催日時：

毎週水曜日 10:00 ~ 12:00

開催場所：うれし野まちづくり会館

(ふじみ野市大井2-15-10)

最寄り駅：東武東上線ふじみ野駅徒歩20分

代表者：新井節

内容：日本語の勉強はもちろん、編み物指導やおはなし会をしています。

#### 上福岡西公民館日本語教室

開催日時：

毎週水曜日 10:00 ~ 12:00

毎週日曜日 10:00 ~ 12:00

開催場所：上福岡西公民館

(ふじみ野市上福岡5-2-12)

最寄り駅：東武東上線上福岡駅より徒歩3分

連絡先：上福岡西公民館 049-266-9501

お子様連れ：相談に応じます。

#### 大井日本語クラス

開催日時：毎週木曜日 19:30 ~ 21:30

開催場所：大井中央公民館

(ふじみ野市中央2-1-8)

電話：049-261-0648

代表：川井敏生

主催者からの一言

多文化共生の時代に、大井日本語クラスは教室に来る外国人学習者の出身国の文化や習慣の違いを認め、対等の立場で、同じ地域に住み日本語を学ぶ外国人の目線に立ち、生活者として使える日本語を教えています。

今まで大井日本語クラスには外国政府から派遣された技術研修生、日本で勉強している

就学生や留学生、日本企業や在日外資企業で働く外国人ビジネスマン、日本で事業展開する経営者、日本人と結婚している外国人配偶者など、さまざまな経歴を持つ外国人が日本語の勉強に来ています。

大井日本語クラスは学習者の日本語能力レベルに合わせてテキストや話題を提供し、日本での社会生活に必要な使える日本語を教えるのはもちろん、学習や自由会話を通して日本の文化や習慣、日本語の魅力や面白さが伝えられるよう努力しています。

なお、大井日本語クラスは外国人に日本語を教えるボランティアを募集しています。日本語教育に興味のある方、外国人と交流してみたい方、経験や外国語の知識がなくても大丈夫です。外国人との会話や交流を通して相手国の文化や習慣を知り、また日本語の再発見もできます。お気軽にご参加ください。

#### 大井親子日本語教室

開催日時：毎週土曜日 13:30 ~ 15:30

開催場所：大井中央公民館

(ふじみ野市中央2-1-8)

電話：049-261-0648

指導者：ボランティア（開催時には常時3~4人が在室）

代表者：川本幸子

主催者からの一言

日本語や地域にまだ慣れない外国人の親子や、企業で働く人々に対し、日本語のみならず、日本の文化、習慣を知っていただくために以下のとおり活動しています。

当日本語教室は開設してから7年目に入りました。その間いろいろな国からいろいろな年齢の学習者が学び、「卒業」していきました。

学習者の日本語のレベル、学習目的、学習内容が異なるため、出来るかぎり、それぞれのニーズを満たすため、マンツーマン形式で行なうこととしておりますが、みんなでお茶を飲みながら話し合ったり、ゲーム等、楽しんだりする時間も時折設けて、学習者間の交流を図っています。

## 日本工業大学の学生がNPOのためのソフト開発 1年間の成果を発表するための報告会開催

埼玉県宮代町にキャンパスのある日本工業大学情報工学科では、大木幹雄教授の指導のもと、毎年、同学科の学生が、地域のNPOの活動のためのソフトづくりを授業の一環として行っている。

今年1月17日には、昨年4月以降に行ってきた作業のまとめとして、学生らによる報告会が行われた。当日は、パソコンが並ぶ大教室で、学生によるソフト作成状況についての報告と、それに対するNPO側の意見や感想などのやり取りが行われた。

今年度に学生たちが取り組んだのは、宮代町に事務所を置くNPOさわやか福祉の会「きりびと みやしろ」が依頼した「地域相互助け合い活動管理システム」と、さいたま市に事務所を置くNPO「資産相談センター」が依頼した「老人福祉施設への入居状況検索Webシステム」、そしてふじみの国際交流センターが依頼した「外国人子女向け日本語初等教育システム」の3つだった。

この授業に参加した学生は23人。学生たちは、3～4人で6つの班に分かれ、3つのシステム作成をそれぞれ2つの班が担当して、競作する形で行われた。

それぞれの班から作成状況についての報告が行われると、各NPOの担当者からはねぎらいの言葉と同時に、不足点、改善点などの意見が出されたが、学生はそうした意見に対して、1ヵ月後くらいの今年度内に修正して提出することになった。

3つのシステムのうち、ふじみの国際交流センターが依頼した「外国人子女向け日本語初等教育システム」というのは、センターの日本語教室で利用することを前提としたもの。外

国から日本に来たばかりの人が困るのは、生活の中での買い物や交通機関の利用。買い物は、市内のスーパーマーケットなどですることになるが、そこでの表示はほぼ日本語のみ。そこで、担当する学生は、野菜や果物、肉など日常的に買い物をするときに、何は日本語でどう表記されているのか、また品物の値段とつり銭の関係を実際の硬貨や紙幣を例示に出しながら学ぶソフトを開発した。また、もう一つ作られたのは、電車に乗るときの切符の買い方を学ぶソフト。外国から来た人にとって、電車の切符を買うのは一つの関門。行きたいところへの切符をどのようにして買えばよいのか、学生たちは自動販売機の写真を入れながら、日本語を学ぶシステムを作成した。ただ、いずれもソフト作成は途中経過。1ヵ月後をめどに、内容を改善させていくことになった。

こうした授業は、学生たちが実社会に出たときに、依頼者（クライアント）の要望をどのように聞いて自分の仕事に生かしていくかを、実践的に学ぶ目的で行われている。



ふじみの国際交流センターでは、日本に来てから、さまざまな理由で困りごとをかかえておられる外国籍の方々のサポートを行っています。そうした現場でどのようなことが起きているか、センターのボランティアスタッフでもある行政書士の藤林美穂さんと、センタースタッフとで紹介していきたいと思います。

### 永住資格がとれたら次は「帰化」?!

藤林 美穂

### 日本に住み続けるためのゴールは

フィリピン国籍のCさんから、「帰化したい」という相談を受けました。彼女は日本在住23年、「永住」の在留資格を持っている英語の先生です。

「帰化」とは、外国籍の人がもとの国籍を捨てて日本国籍をとること。外国人が日本に来て暮らす場合、まず来日直後は通常1年ごとに入管に在留資格(俗にいう「ビザ」)の更新に行かなければなりません。日本での生活にも慣れてきて、安定してきたとみなされると、今度は3年の在留許可をもらえます。3年許可がおりると、次なる目標は「永住」です。在留資格によって永住申請できるまでの滞在年数はさまざまですが、現在3年の許可が出ていることが申請のための第一条件です。

この「永住」の申請は、外国人にとって日本で生活していく上での大きな節目といえます。永住者になれば住宅ローンも組めるし、面倒な入管に行く回数が減るし、いろいろ負担が軽くなります。みんな永住申請できる日を指折り数えて待っているのです。ですから私は、永住資格は在日外国人にとって、「すごろく」の上がりのようなものだと思っていたのですが、Cさんにとっては、さらにその次に「帰化」があるというイメージのようです。

帰化手続のために法務局に提出しなければならない書類はとて多く、また審査の中で日本語の読み書き能力もチェックされるので、なかなかハードルが高いものですが、Cさんのほかにも、帰化したいということで相談し

てくる人は結構います。帰化したい理由はそれぞれですが、やはり日本で暮らしていくのには、「外国籍」であるのと「日本国籍」であるのとでは大きな違いがあり、日常的に不便を感じている在日外国人が「ええい!それなら日本国籍をとってやる!」と考えるのも無理のないことです。

日本人が日本で普通に暮らしている限り、日本の社会制度は空気のように当然で、私たちはそれによって守られていることにさえ気づきませんが、それらの制度は在日外国人を同じように守ってくれるものではありません。在日外国人は自分の身を守るための制度を自らの努力でなんとか手に入れなければならず、「3年許可がおりたら永住を、永住がとれたら今度は帰化を」というステップアップ作戦はその現れなのでしょう。

首尾よく帰化できたとしても、日本社会の中で出自や外見を理由に差別を受ける可能性は残ります。しかし日本国籍を取れば、少なくとも制度上の差別を受けることはなくなります。日本での生活をより安心なものにしていくために、「帰化したい」という人はこれからも増えていくと思います。

#### 筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体にボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

センターの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

活動を担う会員.....正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

センターを財政的に支える会員.....賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511  
 口座名：ふじみの国際交流センター

**ご寄付をいただいた方々**

ご支援ありがとうございます

2008年4月～(50音順・敬称略)

(株)オムテック 尾高昇 太田原裕 小原富明  
 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘 金子康子  
 国際ソロプチミスト埼玉 後藤泰博 駒形一夫  
 斉藤彩子 宍戸フミエ 菅山修二 鈴木譲二  
 田口信一 立麻医院 曹圻 寺村仁 東京電力労働組合埼玉総支部  
 鳥居政子 中嶋恵津子 西山正浩 萩原千代子 東入間地区遊技業防犯協力会  
 (株)マイカル大井サティ 馮雪蘭 百瀬滉 柳原国江 (有)矢野住研 山畑博子  
 吉田純一 ワン・シーウェン

**ご寄付のお願い**

住民の60人に1人が外国人という埼玉県の実状の中、ふじみの国際交流センターでは、結婚・出産・育児・ビザ・医療・労働など、課題別の「多言語生活ガイドブック」をつくりたいと考えています。できたら県内全域に配布して、外国人犯罪や被害が起きないように、14年に渉る生活相談の実例を踏まえた情報を提供したいのですが製作資金がありません。なんとか寄付をお願いできないでしょうか。

埼玉県のNPO基金に「指定先ふじみの国際交流センター」と明記して寄付をしていただきますと、市民税・所得税の控除が受けられます。国家予算も全額1割カットという経済状況の厳しい最中に厚かましいお願いですが、正しい情報さえ得られれば、起きないですむ事件や悲劇がたくさんあると思います。よろしくお願ひします。

ふじみの国際交流センター(FICEC)一同

**サービス料金表**

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター(製版代) 1枚100円 印刷代 1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円+交通費
	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン(A4判)	
翻訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、ロシア語、ベトナム語	婚姻関係、ビザ申請、履歴書 A4判1頁、40字・30行 1枚1,000円
	その他の文書	A4判1頁、40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、ロシア語、ベトナム語、シンハラ語	半日5,000円+交通費

**特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター**

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10  
 うれし野まちづくり会館2階  
 Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291

**ボランティア活動に、ご参加ください**

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。